

科目名	徒手検査法実技							年度	2026
英語科目名	Empty hand laboratory procedure practical skill							学期	前期
学科・学年	柔道整復科 3年次	必/選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実技
担当教員	杉本知、青木伊之、加藤健太、宮本功三、後藤晃弘、秋田雄大、有山敦士	教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)		
【科目の目的】 2年次に学習した軟部組織損傷各論を基に、各部位別、各損傷ごとに軟部組織損傷時の触診や整形外科的テスト法について、正確な実技とその注意事項を学び、併せて鑑別すべき疾患を理解することが狙いである。 代表的徒手検査法について学び、身体各部位について起こる軟部組織損傷の概説、発生機序、症状、治療法、予後、合併症、鑑別すべき類症等も含めてについて口述し、視診、触診、徒手検査法を実施して損傷程度のカテゴリを行う。									
【科目の概要】 部位別に具体的な外傷の徒手検査法を学ぶ。 この授業では、プリントを用いる。1年次に学んだ運動器、特に軟部組織の基本的な構造と機能、2年次に学んだ各部位の軟部組織損傷の知識を基に、身体各部位の損傷について徒手検査法の意義、意味、動きを理解し、正確な実技を実施、口述できるようになるよう授業を進める。									
【到達目標】 臨床現場に十分に堪えうるよう、各部位別、各損傷ごとに軟部組織損時に加わる力の特徴やそれに影響を与える要素、それぞれの損傷の概説、分類、発生機序、徒手検査法、症状、治療法、固定法、治癒経過、治癒に影響を与える因子、予後、合併症、鑑別診断を要する類症などについて正確に口述し、視診、触診、整形外科的テスト法を正確に実施すること（認定実技審査で問題なく合格できるレベル）を到達目標としている。									
【授業の注意点】 柔道整復師の業務内容そのものを学ぶので、身だしなみに注意を払い（スクラブ着用、爪は綺麗に、装飾品は外すなど）、医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	各徒手検査法の目的が正確に理解できている	各徒手検査法の目的がある程度理解できている	各徒手検査法に目的があることは認識しており理解に努めている	各徒手検査法に目的があることは認識しているが内容が誤っている	徒手検査法に目的があることを理解せず漫然と行っている				
到達目標 B	全身状態の観察、局所の状態把握が正確かつ適切である	全身状態の観察、局所の状態把握の必要性、内容はある程度理解している	全身状態の観察、局所の状態把握が必要であると認識し理解に努めている	全身状態の観察、局所の状態把握が必要であると認識しているが、内容が誤っている	全身状態の観察、局所の状態把握が必要であると認識していない				
到達目標 C	検査に適した位置取り、姿勢、患肢の把握等が正確に出来る	検査に適した位置取り、姿勢、患肢の把握等がある程度正確に理解している	検査に適した位置取り、姿勢、患肢の把握等があることを認識し理解に努めている	検査における位置取り、姿勢、患肢の把握等が誤っている	検査に適した位置取り、姿勢、患肢の把握等の意味を全く理解していない				
到達目標 D	検査手順が正確かつ適切である	検査手順が拙くとも正確ではある	正しい検査手順は認識しており理解に努めている	検査手順が誤っている	検査手順を理解する姿勢がない				
到達目標 E	検査後の全身、局所の確認が正確かつ適切である	検査後の全身、局所の確認が拙くはあるが正確ではある	正しい検査後の全身、局所の確認がある事は認識しており理解に努めている	検査後の全身、局所の確認の仕方が誤っている	検査後に全身、局所の確認をしていない				
【教科書】 教科書（包帯固定学公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修一）に準拠する。									
【参考資料】 なし（自身作成のプリントを配布）									
【成績の評価方法・評価基準】 全体の70%は試験と課題を総合的に評価する。残り30%は授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する。									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		徒手検査法実技			年度	2026
英語表記		Empty hand laboratory procedure practical skill			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	距腿関節外側副靭帯損傷の理学診断、評価	距腿関節外側副靭帯損傷の徒手検査法を正しく理解し実践できるか	1	距腿関節外側副靭帯損傷の徒手検査法	前方（後方）引き出しテストと、内転内反ストレステストの説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切にできる	3
			2	補足	スクイーズテスト（遠位脛腓関節損傷の検査法）の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切にできる	
			3	テーピングの基本	テーピングの目的と禁忌、テープの扱い方を理解する	
2	前距腓靭帯損傷のテーピング①	前距腓靭帯損傷へのテーピングを正確かつ適切に実践できるか	1	固定材料	患肢に適したサイズのテープその他必要なものの準備を適切にできる	3
			2	固定準備と患肢の肢位	固定に適した位置取り、患者への患肢の肢位の指示が適切にできる	
			3	固定の出来上がり	テーピングの正しい範囲、速さで、丁寧に皺や弛み無く綺麗な出来栄で実践する事ができる	
3	前距腓靭帯損傷のテーピング②	前距腓靭帯損傷へのテーピングを正確かつ適切に実践できるか	1	前回の振り返り	固定材料、準備、指示、固定の出来上がりについて、前回より質を高める	3
			2	バリエーション①	より固定性を高める、或いは弱めるテーピングについて理解し実践できる	
			3	バリエーション②	卒業実技試験で行うバリエーションについて理解し実践できる	
4	膝関節の理学診断、評価	膝関節の損傷の徒手検査法を正しく理解し実践できるか	1	膝の徒手検査法①	ACL、PCL損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	3
			2	膝の徒手検査法②	膝側副靭帯損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
			3	膝の徒手検査法③	膝半月板損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
5	膝関節のテーピング①	膝関節側副靭帯損傷へのテーピングを正確かつ適切に実践できるか	1	固定材料	膝MCL損傷に関して、患肢に適したサイズのテープその他必要なものの準備を適切に出来る	3
			2	固定準備と患肢の肢位	固定に適した位置取り、患者への患肢の肢位の指示が適切にできる	
			3	固定の出来上がり	テーピングの正しい範囲、速さで、丁寧に皺や弛み無く綺麗な出来栄で実践する事ができる	
6	膝関節のテーピング②	膝関節十字靭帯損傷へのテーピングを正確かつ適切に実践できるか	1	固定材料	膝ACL、PCL損傷に関して、患肢に適したサイズのテープその他必要なものの準備を適切に出来る	3
			2	固定準備と患肢の肢位	固定に適した位置取り、患者への患肢の肢位の指示が適切にできる	
			3	固定の出来上がり	テーピングの正しい範囲、速さで、丁寧に皺や弛み無く綺麗な出来栄で実践する事ができる	
7	大腿部、下腿部の理学診断、評価	大腿部、下腿部損傷の徒手検査法を正しく理解し実践できるか	1	大腿部打撲の徒手検査法	大腿部打撲の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	3
			2	ハムストリング肉離れの徒手検査法	ハムストリング肉離れの徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
			3	下腿三頭筋肉離れの徒手検査法	下腿三頭筋肉離れの徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
8	振り返り	ここまで学んだ知識、技術を正しく理解し実践できるか	1	距腿関節	距腿関節外側副靭帯損傷の徒手検査法とテーピングが正確かつ適切にできる	3
			2	膝関節	膝関節の靭帯損傷の徒手検査法とテーピングが正確かつ適切にできる	
			3	大腿部、下腿部	大腿部、下腿部の損傷の徒手検査法が正確かつ適切にできる	
9	大腿部のテーピング	ハムストリングス肉離れのテーピングを正確かつ適切に実践できるか	1	固定材料	ハムストリングス肉離れに関して、患肢に適したサイズのテープその他必要なものの準備を適切に出来る	3
			2	固定準備と患肢の肢位	固定に適した位置取り、患者への患肢の肢位の指示が適切にできる	
			3	固定の出来上がり	テーピングの正しい範囲、速さで、丁寧に皺や弛み無く綺麗な出来栄で実践する事ができる	
10	肩部の理学診断、評価①	肩部損傷の徒手検査法を正しく理解し実践できるか	1	肩の徒手検査法①	腱板損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	3
			2	肩の徒手検査法②	上腕二頭筋長頭腱損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
			3	肩の徒手検査法③	肩関節唇損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
11	肩部の理学診断、評価②	肩部損傷の徒手検査法を正しく理解し実践できるか	1	肩の徒手検査法④	肩鎖関節損傷の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	3
			2	肩の徒手検査法③	動揺性肩不安定性の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
			3	前回は含めた振り返り	肩の徒手検査法について、より質を高める	
12	肩部のテーピング	肩部へのテーピングを正確かつ適切に実践できるか	1	固定材料	肩鎖関節損傷、肩外転・外旋制限に関して、患肢に適したサイズのテープその他必要なものの準備を適切に出来る	3
			2	固定準備と患肢の肢位	固定に適した位置取り、患者への患肢の肢位の指示が適切にできる	
			3	固定の出来上がり	テーピングの正しい範囲、速さで、丁寧に皺や弛み無く綺麗な出来栄で実践する事ができる	
13	ここまでの徒手検査法の習熟	其々の部位への正確かつ適切な徒手検査法の反復練習	1	足部の検査法	足部の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	3
			2	大腿部、下腿部の検査法	大腿部、下腿部の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
			3	肩の検査法	肩関節の徒手検査法の説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	
14	振り返り	ここまで学んだ知識、技術を正しく理解し実践できるかの確認	1	距腿関節から肩までの徒手検査法	距腿関節から肩関節の徒手検査法が正確かつ適切にできる	3
			2	距腿関節から肩までのテーピング固定	距腿関節から肩関節のテーピングが正確かつ適切にできる	
			3	卒業実技試験で行うバリエーションについて	上記とは異なる距腿関節と膝関節のテーピングを正確かつ適切にできる	
15	特に重要な部分の復習①	足部の徒手検査、テーピング固定を正しく理解し実践できるか	1	距腿関節外側副靭帯損傷の徒手検査法	前方（後方）引き出しテストと、内転内反ストレステストの説明と、患者、助手への指示、検査の各動作、検査の評価が適切に出来る	3
			2	固定準備と患肢の肢位	患肢に適したサイズのテープその他必要なものの準備を適切にでき、固定に適した位置取り、患者への患肢の肢位の指示が適切にできる	
			3	固定の出来上がり	テーピングの正しい範囲、速さで、丁寧に皺や弛み無く綺麗な出来栄で実践する事ができる	

評価方法：1.小テスト、2.パフォーマンス評価、3.その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考等